



こんにちは、
ぐちゃぐちゃのゴチャゴチャ

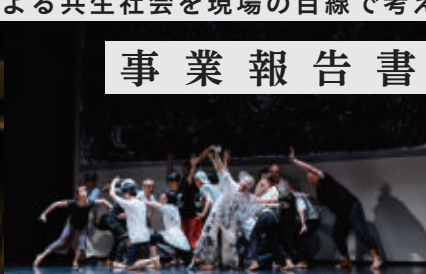
共生社会



2019年度 文化庁 障害者による文化芸術活動推進事業

文化芸術による共生社会を現場の目線で考え試みるプロジェクト

事業報告書



障がいの有無、経済状況や家庭環境、国籍、性別など、
一人一人の「差異」を優劣という物差しではなく**独自性**ととらえ、
幾重にも**循環していく関係性**を生み出すことを目的にしたこのプロジェクトは、
今年度は**キックオフの1年**として、
さまざまな**コミュニケーション**と**表現**の扉を開くことから始めました。

そもそも「**社会的弱者を包摂する共生社会**」という言葉には
なんとも違和感がぬぐえません。
ダンスボックスのある新長田は、
高齢者や**在日外国人**の割合が神戸市内でもとても高いエリアですが、
見栄を張らなくてもよい心地よさなどがまちの受け皿となり、
一部では若者の移住も増えています。
強者がつくる社会が社会的弱者を包摂するのではなく、
みなが同じ目線で互いに受け止め合う寛容性と多様性のある社会が理想です。

劇場とは、**パフォーミングアーツ**を通じて**新しい価値**に出会うとともに、
コミュニケーションの方法が違う人とも**対話**が生まれる場でもあります。
いうなれば「**創造的共生社会**」実践の場。
言葉で説明しつくせない感覚を大事に抱えながら、
社会の制度では補いきれないものが満たされることこそ、
芸術文化の大きな力なのだと思います。

この報告書は、今年度の最後の種まきとして作成しました。
芽が出て、花が咲いて、風が種を運んでくれるように、
やわらかにこのプロジェクトが広がっていくことを願っています。

CONTENTS

目次

03 **オープニング** 2019年7月7日(日)
キックオフ・ミーティング！ featuring新長田アートマフィア
「新長田で“共生”について考える 現在→これから」
文、角野史和、渡辺祥弘、西崎宣弘、大谷煥、中元俊介、吉川史浩、川本尚美、小國陽佑、野上恵美、
バクウォン、趙恵美、キムシニョン、ファン・チョン・クォン、首藤義敬、大谷紘一郎、
永田智子、遠藤順二、小笠原舞、近藤美佳、尻池宏典、増田匡、芹沢高志

05 **公開講座1** 2019年8月3日(土)
障がい者のパフォーマンス・アーツの現在とこれから
森田かずよ、長津結一郎、大谷煥

05 **公開講座2** 2019年8月4日(日)
触れる・聞く・嗅ぐことから
新しい“ユニバーサル・ミュージアム”を考える
広瀬浩二郎、角野史和、中元俊介、吉川史浩、横堀ふみ

06 **公開講座3** 2019年8月20日(火)
“老い”から見える、ためらいと希望の哲学談義
西川勝、砂連尾理、首藤義敬、横堀ふみ

06 **公開講座4** 2019年8月25日(日)
介護するからだ、育児するからだ
かしこい身体の驚きと発見
細馬宏通、福角幸子、横堀ふみ

07 **ワークショップ1** 2019年7月29日(月)、30日(火)
身体に障がいのある人もない人も、ダンスを紡ぐ
アダム・ベンジャミン

08 **ワークショップ2** 2019年8月11日(日)、12日(月) 釜ヶ崎芸術大学@新長田
ソケリッサと踊ろう！ Let's Dance with Sokerissa
東京ホームレスダンスチーム・ソケリッサとほいさっさ！
ソケリッサ、上田假奈代、首藤義敬

09 **ワークショップ3** 2019年9月28日(土)
<音楽とダンス>身体で聴いてみる・交換してみる
AZUMI PIANO、三田宏美、田中幸恵

10 **ワークショップ4** 2019年10月14日(月/祝)
ダンスを愉しむ時間
福角宣弘、西岡樹里

11 **ワークショップ5** 2020年2月3日(月)、4日(火)
ダンスワークショップナビゲーターのための講座
イアン・セガッラ、ジョセフ・マドリアガ、山口恵子

12 **出前講座1** 2019年9月14日(土)
コラボレーションプログラムwithエコールKOBÉ
西岡樹里、高野裕子

12 **出前講座2** 2019年8月22日(木)
出前パフォーマンス「ダンスキャラバン」
升田学、等々力政彦、いはらみく、貫渡千尋、田添幹雄、米澤百奈、田中幸恵

13 **パフォーマンス1**
2019年10月13日(日)、14日(月/祝)、19日(土)、11月2日(土)、3日(日)
下町芸術祭2019:
家と踊る ふたりのダンス「オンブラ・マイ・フ」
砂連尾理、寺田みさこ、伊藤愛、ネコ・ザ・ゴースト、垣尾優、根本雅子、
サイトウマコト、斉藤綾子、田村興一郎、田村みくり、
福岡まな実、福岡さわ実、住人の人々

15 **パフォーマンス2** 2019年10月20日(日)
下町芸術祭2019:多国籍ごちゃ混ぜカラオケ大会
エリン・キルマレイ & ダンサーズ、Niranjan、ヤマウチリリー、
Nguyen Tran Thinh、米川宗夫、向江富美江、Nai Suke Hong San
Vanhacoustic、中谷紹公、綿貫功一、衣笠有清、山本豊久、
朴利河、フランシス大和、バクウォン、金千秋

16 **パフォーマンス3** 2019年11月9日(土)、10日(日)
下町芸術祭2019:触れて聞いて嗅ぐことから
「無視覚流！下町のアート&まち歩きツアー」
広瀬浩二郎、中元俊介、角野史和、吉川史浩

17 **パフォーマンス4** 2019年12月7日(土)
TRUST Dance Theatre (韓国) × 森田かずよ ダンス公演
Hyeonghee Kim、Yejin Kwon、Hyunjung Lee、Jongtaek Sung、
Minsoo Kim、Younghoon Hong、Dahye Kang、Chaihyun Lee、
森田かずよ、西岡樹里、福角宣弘、田村みくり、アラン・スナンジャ、
大畑楽歩、福角幸子、Sungsoo Nah、Noah、Woojae Jho、Hongboo Kim

2019年7月7日(日)14:00~17:30

キックオフ・ミーティング！featuring新長田アートマフィア

新長田で“共生”について考える「現在→これから」

まずは、「新長田アートマフィア」のダンス部によるパフォーマンスで開幕。

約4時間におよぶ4部構成のミーティングを前に会場の熱を上げて、ここが劇場であることを思い出させてくれました。ミーティングは、障がい者、高齢者、在日外国人、子育てという4つのテーマで、この街の実践者と各部ごとの司会進行役が登場。異なるテーマにもかかわらず、「つながるはずのない人がつながっていく」新長田の街さながらにどこかで話が接続するようなトークが展開されました。最後の総括では「長田はひとつの未来モデルになる」という言葉も飛び出して、この街でぐちゃぐちゃでゴチャゴチャな共生社会について考えることは、現代における幸せとはなにかを考え、日々の暮らしへとつなげていくことに他ならないと実感されました。

ゲスト

第一部

文(NPO法人DANCE BOX)、中元俊介(福祉事業型「専攻科」エコールKOBE)、吉川史浩(一般社団法人Water Ground Mountain)、川本尚美(特定非営利活動法人100年福祉会片山工房)、小國陽佑(NPO法人芸法)

第二部

角野史和(一級建築士事務所こと・デザイン)、野上恵美(ベトナム夢KOBE)、パクウォン&趙恵美(スタジオ・長田教坊)、キムシニョン(一般社団法人神戸コリア教育文化センター)、ファン・チョン・クォン(VIAN)

第三部

渡辺祥弘(K+action)、首藤義敬(はっぴーの家ろっけん)、大谷紘一郎(株式会社PLAST)、永田智子(新長田あんしんすこやかセンター)、遠藤順二(医療法人社団十善会グループ野瀬サービス付き高齢者住宅「やっぱりここ」)

第四部

西崎宣弘(アグロガーデン)、小笠原舞(合同会社こどもみらい探求社)、近藤美佳(真陽小学校ホアマイ教室)、尻池宏典(ふたば食堂(コミュニティ型こども食堂))

まとめ

大谷煥(NPO法人DANCE BOX)、増田匡(長田区長)、芹沢高志(デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)センター長)

会場

Art Theater dB KOBE

(※以降、会場表記のないものは全てdBが会場)

Keyword

ちょうどいい距離感

完全に
理解しあわなくても
いいという寛容さ

ぬるま湯の
心地よさで
忘れてしまうこと

詳細な内容はこちらから





2019年8月3日(土)15:00~17:30

障がい者のパフォーミング・アーツの現在とこれから

前半は、森田かずよさんによるソロダンス『アルクアシタ』の上演と、長津結一郎さんによる1970年代からの障がい者とパフォーミングアーツの関わりについてのレクチャー。後半は、2人の対談を行いました。森田さんは、パラリンピックを前に障がいのある人のダンスの機会は増えていても、「わかりやすいダンス」しか求められてないような実感もあると言います。障がいのある人が舞台上に上がっただけで拍手をするというわかりやすさに留まるのではなく、「すぐに解釈できないものだとし、一度立ち止まったりひたすら待つこと」の大事さが再確認されました。

ゲスト

森田かずよ
「二分育椎症・側湾症」を持って生まれ、18歳より芝居を始める。表現の可能性を日々楽しく考えながら、義足の女優・ダンサーとして活動。『Performance For All People.CONVEY』主宰。第11回北九州&アジア全国洋舞コンクールバリアフリー部門 チャレンジ賞受賞。

長津結一郎

アーツ・マネジメント、文化政策学、芸術社会学などをもとに、障害のある人の表現活動に着目した研究を行う。芸術活動の担い手育成や市民創作ワークショップもフィールドとしている。著書に『舞台の上の障害者：境界から生まれる表現』（九州大学出版会）。日本文化政策学会理事。

Keyword

障害者による
文化芸術活動の
推進に関する法律

青空が見えるカオス

パラリンピックの
10年後を見据えて



詳細な内容はここから



Keyword

声かけは大事

「ふれあい」ではなく
「触れ合い」

野生の勘を再評価



詳細な内容はここから

2019年8月4日(日)15:00~17:30

触れる・聞く・嗅ぐことから・・・

新しい“ユニバーサル・ミュージアム”を考える

前半は、広瀬浩二郎さんが提唱する無視覚流のユニバーサル・ミュージアムについてのレクチャー。後半は、新長田で活動する3人が広瀬さんを質問攻めにして、レクチャーの内容をさらに噛み砕いていきました。触覚を中心に感覚の多様性を尊重した無視覚流のまち歩きを実践している広瀬さん。11月に新長田でのまち歩き企画が決まっているため、話はこれまでの体験も踏まえた具体的な内容に。肘を持って歩く「触れ合い」によるコミュニケーション、触りがいのある壁などの「触り映え」が共有できるのかといったトークは、観覧者の感覚まで広がっていくような時間となりました。

ゲスト

講師：広瀬浩二郎

1967年、東京都生まれ。13歳の時に失明。筑波大学附属盲学校から京都大学に進学。2000年、同大学院にて文学博士号取得。専門は日本宗教史、触文化論。01年より国立民族学博物館に勤務。現在はグローバル現象研究部 准教授。自称「座頭市流フィールドワーカー」、または「琵琶を持たない琵琶法師」。

聞き手：

角野史和

(一級建築士事務所こと・デザイン)

中元俊介

(福祉事業型「専攻科」エコールKOBÉ)

吉川史浩

((一社)Water Ground Mountain)

2019年8月20日(火)18:30~20:30

“老い”から見える、ためらいと希望の哲学談義

西川勝さん、砂連尾理さん、首藤義敬さんによる鼎談。前半は各々の活動紹介を起点にしながら、老い、病い、認知症とともにある態度や思想について。「決して哲学はひとりではできない」「家族神話への違和感」「常に問題を抱えている自分と地続きで活動すること」などが話されました。後半は、さらに踏み込んで死をめぐる内容に。「明日死ぬかもしれない」といった未来の話ではなく、死は今にしか訪れない」という臨床体験を踏まえた西川さんの話は、決して他人事ではない真実味がありました。

ゲスト

西川勝

1957年大阪市生まれ。臨床哲学のプレイヤー(遊び人とも)を目指して活動中。著書に『ためらいの看護』(岩波書店)などがある。

砂連尾理

1991年寺田みさことダンスユニットを結成。近年はソロ活動を中心に、障がい者や高齢者、避難所生活者、また妊婦さんとのプロジェクトも手がけ、アートと社会を繋ぐ活動を展開している。著書に『老人ホームで生まれたくつつダンス>ダンスのような、介護のような』(晶文社)。立教大学・映像身体学科 特任教授。

首藤義敬

株式会社Happy 代表取締役。地域共生型事業のシェアハウス『はっぴーの家ろっけん』を運営。企画段階から保育園児・学生・主婦・クリエイター・外国人等、多様なバックグラウンドをもつ地域住民で事業計画とコンセプト策定を行いながら事業運営をスタート。現在は全国から視察が絶えない地域のセーフティネットとなっている。

自分の弱さにも従う

明日
死ぬかもしれない
ではなく、
今日死ぬんです

別れのダンス



詳細な内容ははこちらから



Keyword

人間行動学

身体を
動かしてみないと
自分で何ができるか
なんてわからない

その場で
起きていることを
よく見る



詳細な内容ははこちらから

2019年8月25日(日)15:00~17:00

介護するからだ、育児するからだ かしこい身体の驚きと発見

開演の合図もなくいつの間にか始まっていた、細馬宏通さんと福角幸子さんによる約10分の即興パフォーマンス。前半は、その様子を撮影した動画を見ながら、そのときどきの行為や思っていたことを紐解き、分析しました。後半は、福角さんがダンスに出会うまでの話も伺いながら、子育てや介護の日々に起こる課題について細馬さんが客席から聞き出したり、分析したり。ひとつの動作や仕草からさえも異なる視点で捉え直すことができるという手応えが得られました。

ゲスト

細馬宏通

早稲田大学文学学術院文化構想学部教授、滋賀県立大学名誉教授。専門は人どうしの声と動作のやりとり分析、視聴覚文化研究。著書に『二つの「この世界の片隅に」』(青土社)、『介護するからだ』(医学書院)、『うたのしくみ』(ぴあ)、『今日の「あまちゃん」から』(河出書房新社)など。

福角幸子

神戸市出身。脳性麻痺(四肢・体幹機能障害)。2007年db「循環プロジェクト」に参加、各地で公演。2009年「劇団ティクバ×循環プロジェクト」参加、神戸市民劇団に参加。NHK『バリバラ』出演、2016年じゆう劇場に参加。

2019年7月29日(月)14:00～18:00、7月30日(火)10:00～12:00 13:00～15:00

身体に障がいのある人もない人も、ダンスを紡ぐ

障がいを持つ人のダンスを切り開いたパイオニアでもある、アダムさんを迎えてのワークショップ。共に動くことの互いのあり方や開き方、感覚、方法など、長年にわたって培われたメソッドで丁寧に指導が行われました。参加者はプロフェッショナルなダンサーや学生、他府県から駆けつけた人まで。車椅子での参加も多く、分け隔てなくペアやチームをつくりながら、さまざまなダンスの種を学びました。

ゲスト

アダム・ベンジャミン

1991年、身体障害を持つダンサーと共に“CandoCo”ダンス・カンパニーを設立。現在はフリーランスの振付家&舞踊教育家。ラッセル・マリファント、伊藤キムなど多くのアーティスト達とのコラボレーションを行なう他、数々のカンパニーへの振り付けも行なう。著書に“Making an Entrance” (Routledge)。

Keyword

招待するという感覚

空間に
動かされている

自分のエネルギーを
外へ放出



詳細な内容はここから



2019年8月11日(日)14:00～16:00ワークショップ

8月12日(月/祝)13:00～15:00 ワークショップ/16:30～18:30 WS発表+トーク

共催:NPO法人こえとこころとことばの部屋

釜ヶ崎芸術大学@新長田

ソケリッサと踊ろう! Let's Dance with Sokerissa

東京ホームレスダンスチーム・ソケリッサとほいさっさ!

路上生活経験者によるダンスグループ、ソケリッサが2日間にわたってワークショップを行い、最後に成果発表となるショーイング公演を開きました。参加者は、宮崎、大分、東京、千葉…と各地から。ショーイング直前には、ソケリッサの面々が多世代シェアハウス「はっぴーの家ろっけん」を訪れて、利用者の方々を劇場へと誘い、公演がスタートしました。詩人の上田假奈代さんが即興で言葉をつむぐ中ではじまったショーイングでは、舞台上でみなが踊り、動きながら巨大な墨の平面作品を仕上げるという仕掛けも。上演後、ソケリッサのメンバーやワークショップ参加者の自己紹介や感想とともに、ソケリッサのアオキ裕キさん、「はっぴーの家ろっけん」の首藤義敬さんを交えたトークが行われ、ワークショップや個々の体験が観客席にも共有されました。

ゲスト

アオキ裕キ

兵庫県出身。振付家。テーマパーク、タレントのバックダンサー業などを経て、2001年NY留学時にテロと遭遇。帰国後、自身の根底を追求。「今を生きる身体から生まれる踊り」を求め、2005年路上生活経験者と集い、ダンスグループ「新人Hソケリッサ!」を開始。コニカミノルタソーシャルデザインアワード2016 グランプリ受賞。

新人Hソケリッサ!

ダンスグループ。振付家アオキ裕キが、日々生きることに向き合わざるを得ない身体に興味を抱き、2005年路上生活経験者が集い、2007年第1回公演発表。現代に蔓延する偏った価値観への問いかけとともに幅広い可能性を持ち注目される。2017～18年にかけて東京近郊路上ダンスツアー開催。リオ五輪公式文化プログラムに招聘。

上田假奈代

1969年吉野生まれ。3歳より詩作、17歳から朗読をはじめ。『ことばを人生の味方に』と活動する。2003年大阪・新世界でアートNPO「ココールム」をたちあげ、2008年西成・釜ヶ崎に移転。2012年まちを大学にみだてた「釜ヶ崎芸術大学」、2016年「ゲストハウスとカフェと庭ココールム」を開設。大阪市立大学都市研究ブラザ研究員。

首藤義敬

(6ページにプロフィール記載)

常に生きることに
意識を向けざるをえない
路上生活の身体

身体を使い切る

私も踊りたい!

詳細な内容ははこちらから



2019年9月28日(土)14:00～16:00 ワークショップ/16:00～17:00 フィードバック

<音楽とダンス>身体で聴いてみる・交換してみる

聴覚障がいのある人を対象にしたダンスワークショップはどのように成立するだろう。そのことを考えるために勉強会を重ねて、さまざまなワークを提案、実践し、実際にワークショップを開催しました。受付の時点から参加者は聴覚障がいの有無に関係なく、声に出して話すことに。手話もやめて、筆談やジェスチャーで自己紹介して、言葉を発さない静寂のなか、呼吸や五感を使ったワークを展開。最後は、全員で音楽を奏でるようなダンスが劇場内に満ちました。ワークショップ後のフィードバックでは「誰が聞こえて、誰が聞こえないのかが分からず、そのうち、そのことすらどうでもよくなった」「声も手話もなしにした時、受け取る情報が多くなった」などの感想がありました。

ゲスト

AZUMI PIANO

ピアニスト。在独18年を経て、近年では認知症患者との「記憶を巡るコンサート」、音楽と自身の何かを交換し合う「Oto+」。パプアニューギニアの未開の村へ楽器を運び演奏指導するなど、国内外で多様な聴衆と共に豊かな音楽経験を共有する試みを継続している。

三田宏美

ダンサー・手話通訳士。12歳で手話に出会い、やがて手話の身体性・音楽性の魅力にどっぷりハマって舞台表現を開始。言葉×身体×感覚をテーマに日常の当たり前を問い直す試みを続けている。「サイレント・ダイアログ・カフェ」主宰。

田中幸恵

ダンサー、ダンス教育者。2000年渡独。国立ケルン体育大学でエレメンタリーダンスを専攻(修士取得)。ドイツ国内外で活動を始め、ダンスフェスなどに多数出演、ソロ活動も行う。帰国後、2011年よりダンスボックスに勤務。主に教育プログラムを担当し、アウトリーチの講師等を務める他、振付「地獄妖怪音頭」で地域の子どもたちの人気を集める。

Keyword

まったく
言葉が発さない
サイレント状態

全員が同じ速度で
しゃべっていた

音楽とダンスの土台



詳細な内容はここから



ダンスを愉しむ時間

ダンサーの西岡樹里さんと共に、車椅子ユーザーでダンサーの福角宣弘さんが、初のナビゲーターを務めたワークショップ。障がいがある人もない人も、踊ったことのある人もない人も、それぞれが一緒にダンスを楽しみました。自己流のストレッチを紹介するという自己紹介から始まって、ティッシュを身体で受け渡す「ティッシュダンス」、2人組で相手の動きを真似する「まねダンス」など、参加者同士が身体感覚を受け止めあう時間ともなりました。

ゲスト

福角宣弘

車いすユーザー。奈良県出身。印鑑彫刻を修得。ひとり暮らしする。数々の車いすスポーツを楽しむ。2007年db「循環プロジェクト」、2009年「劇団ティクバ×循環プロジェクト」参加。腹話術活動、2016年からじゅう劇場参加、2019年丹波篠山「篠山とおきの音楽祭」参加。

西岡樹里

ダンサーとして国内外で上演される作品に出演。参加作品にチョン・ヨンドゥ「無・音・花」、砂連尾理「ティクバ循環プロジェクト」などがある。国内ダンス留学@神戸1期生。2012年から福祉事業型「専攻科」エコールKOBÉや、放課後等デイサービスなどでダンスのクラスを担当。

踊ることは誰にでも
開かれている

相手の気持ちや
不安を感じとる

自分ひとりでは
生まれない動き



詳細な内容はここから



2020年2月3日(月)18:00～21:00、4日(火) 10:00～13:00

ダンスワークショップナビゲーターのための講座

フィリピン教育演劇協会(PETA)より2人のアーティスト・ティーチャーを招いて、主に教育現場での子どもたちを対象としたダンスワークショップに焦点を当てた、2日間の講座を開催。1日目は、PETAで行われているワークショップを体験し、PETAのナビゲーター育成方法についての講義の後、それぞれにワークシートを作成しました。2日目は、ナビゲーター、参加者、オブザーバーと役割を分担し、ワークショップを実践。それぞれの視点からワークショップを分析した後、参加者の現場の悩みや意見交換などを行いました。

ゲスト

イアン・セガッラ

フィリピン教育演劇協会(PETA)でチーフアーティストとして活動。2011年には俳優として Philstage Gawad Buhay で最優秀賞受賞。2015年には沖縄那覇で行われた国際演劇祭に参加するなど、日本とフィリピンで幅広い活動を行っている。

ジョセフ・マドリアガ

高校卒業後、PETAの全国高校演劇リーグ(PETA-MTTL)をへて、フィリピン教育演劇協会(PETA)でシニアアーティスト・ティーチャーとして活動。

PETA

フィリピン教育演劇協会(PETA)は、1967年からフィリピンのマニラを拠点に活動する劇団。演劇を通して人々と社会の発展を目指して活動し、コミュニティでのワークショップや、社会問題を扱った意欲的な作品を作り続けている。2017年アジアのノーベル平和賞と言われる「ラモン・マグサイサイ賞」を受賞。

山口恵子(BRDG)

通訳・コーディネート

Keyword

構造を学ぶ

多様な要素を含む
遊び

驚きと発見



Keyword

こだわり
体と向き合って、
問い直し
間の一瞬

2019年9月14日(土)会場:トヨタハートフルプラザ神戸

コラボレーションプログラム(WS&発表)withエコールKOBÉ

学校卒業後ももっと学びたいという障がいを持つ学生が通う「エコールKOBÉ」にて、8月から9月にかけて6回のワークショップを実施。ワークを重ねるなかで、参加者それぞれのこだわりやオリジナリティが際立ってきました。最終的には夏の思い出をモチーフにクリエイションを行い、全員でひとつの作品を完成、「ハートフルふれあいまつり」にて上演しました。一瞬一瞬に立ち上がる即興とクリエイションの成果を多くの人に観ていただきました。

ゲスト

ナビゲーター:西岡樹里、高野裕子

※写真は別会場での「ダンスキャラバン」上演風景。



2019年8月22日(木)会場:神戸市立総合療育センター(まるやま学園)

出前パフォーマンス「ダンスキャラバン」

未就学の知的障がいを持つ子どもたちが通う「神戸市総合療育センター まるやま学園」にて、子どもたちと90人の職員に向けて作品上演とワークショップを実施しました。上演したのは、言葉を使わず、オノマトベを中心にした作品「シベリアの花」。できるだけ照明、音響、美術をシンプルに設置するなど、事前の綿密な打ち合わせを行うことで、子どもたちの集中が途切れないよう配慮しました。上演後のワークショップでは、オノマトベと身体を使って、出演者、子どもたち、職員とのコミュニケーションを図りました。

ゲスト

演出・出演:升田学

ダンサー・美術家・グラフィックデザイナー。1997年～2008年、維新派に所属。2008年よりダンス作品に多数出演。一方、2006年より一本の針金で描く美術作品「ヒトスジ」を発表。2016年より仏像を写す「写仏」など、さまざまなテーマで創作。また、NPO法人DANCE BOXの主な広報デザインを担当。

音楽:等々力政彦

トウバ音楽家、独立系研究者(工学博士)。30年にわたり、南シベリアで喉歌(フォーメイ)などのトウバ人の伝統音楽を現地調査しながら、演奏活動をおこなっている。主な関心は、異なるものが出会ったときに「対話」が生じ、お互いに変化しあう現象一般。共生進化、シベリア史、シベリア諸民族の音楽・言語について、実験・調査・論考している。

出演:いはらみく、貫渡千尋、田添幹雄

舞台:米澤百奈

演出助手、コーディネーター:田中幸恵

Keyword

シンプルな舞台設営

オノマトベを使った
創作

鑑賞後の身体を使った
追体験

2019年10月13日(日)、14日(月/祝)、19日(土)、11月2日(土)、3日(日)

下町芸術祭2019

家と踊る ふたりのダンス「オンブラ・マイ・フ」

椅子に座ったまま、シンプルな身振り手振りのみで展開する「オンブラ・マイ・フ」は、砂連尾理+寺田みさこが20年前に振り付けたデュエット作品。この静かな小作品を掘り起こし、新長田のさまざまな「自宅」、地域の居間のようにになっている「コミュニティ・スペース」で上演しました。シンプルな振付だけに、踊る人によって踊り方が変わることが見どころのひとつ。今回は、公演ごとにそれぞれの場所の住人1組、ダンサー1組という2回の上演を行い、夫婦や親子、姉妹、同僚、上司と部下など、各ペアの関係性もさまざま。上演会場は10か所におよび、それぞれの場所に関わる人たちの想いや歴史が、ダンスを通して交差する、特別な時間が生まれました。

ゲスト

振付:

砂連尾理

(6ページにプロフィール記載)

寺田みさこ

幼少よりバレエを学ぶ。1991年砂連尾理とユニットを結成。06年以降ソロ活動を開始。自身の作品の他、石井潤、山田せつ子、白井剛、笠井敦振付作品などに出演。07年「愛音」、13年「アリア」、18年には3人の振付家によるソロ作品「3部作」を発表。アカデミックな技法をオリジナリティへと昇華させた解像度の高い踊りに定評がある。

出演:

砂連尾理+寺田みさこ、
伊藤愛+ネコ・ザ・ゴースト、
垣尾優+梶本雅子、
サイトウマコト+斉藤綾子、
田村興一郎+田村みくり、
福岡まな実+福岡さわ実、
住人の人々

会場: K邸、F邸、G邸、O邸、Y邸、
神戸映画資料館ロビー、野瀬病院、
caféバベゴ、コミュニティ・
サロンGnu、駒どりの家

振付の発掘

佇まいや身体の想い

行間の多さ





2019年10月20日(日)14:00~18:00

下町芸術祭2019

多国籍ごちゃ混ぜカラオケ大会

韓国、アメリカ、インド、ペルー、ベトナム、奄美諸島・徳之島、ミャンマー、そして、新長田といった多様なルーツにつながる人々が集まって、各々の1曲を歌いました。歌われる言語も音楽ジャンルも歌うスタイルもさまざまでしたが、「カラオケ大会」というフォーマットを通して、異なる文化や芸能を知り、尊重し合う場を生み出し、また、ステージ上では故郷や今ここで暮らすことへの思いなども聞きました。この多国籍カラオケ大会が、長田の恒例の行事になっていけばと思います。

ゲスト

出演: エリン・キルマレイ & ダンサーズ、Niranjan、ヤマウチ リリー、Nguyen Tran Thinh、米川宗夫 & 向江富美江、Nai Suke Hong San、Vanhacoustic、中谷紹公 & 綿貫功一 & 衣笠宥清 & 山本豊久、朴 利河
コメンテーター: フランシス大和、パク ウォン
司会: 金千秋

Keyword

奄美では歌会を
開けば一晩中

小学生から
70歳オーバーまで

南インドからの
留学生による
「俺ら東京さ行くだ」



詳細な内容はこちらから



2019年11月9日(土)・10日(日)10:30~14:00

下町芸術祭2019

触れて聞いて嗅ぐことから

「無視覚流！下町のアート&まち歩きツアー」

8月にレクチャーを行った広瀬浩二郎さんによる「ユニバーサル・ミュージアム」の実践編。広瀬さんをはじめ、アーティストの中元俊介さん、プロのまち歩き家の角野史和さん、アウトドアの専門家の吉川史浩さんを案内人に、下町芸術祭の展示プログラムや下町のまち歩きを楽しみました。まち歩きは2人1組で、アイマスクをする相手のひじを軽く持って一歩先を誘導。途中の昼食では、全員がアイマスクをしてカレーとコーヒーをいただきました。「今まで経験したことのない感覚だった」といったフィードバックに代表されるように、自身の身体感覚を問い直す機会となりました。

ゲスト

企画・案内人：広瀬浩二郎

中元俊介、角野史和、吉川史浩

相談役：小國陽佑

Keyword

新感覚体験

聴覚や指先の感覚



2019年12月7日(土)

共催:TRUST Dance Theatre + CANE&MOVEMENT

TRUST Dance Theatre (韓国) × 森田かずよ ダンス公演

韓国・ソウルを拠点に、障がいのある人もない人も共にダンス作品を生みだしている「トラスト・ダンス・シアター」から7人のパフォーマー、4人のミュージシャン、振付家、通訳が来日。そこに義足のダンサーである森田かずよ、4人の車椅子パフォーマー、アフリカのトーゴ出身のアラン、西岡樹里という7人のダンサーが加わって、2週間の滞在制作と公演を行いました。キム・ヒョンヒ氏によるクリエーション、国籍や言語、身体の状態を超えて互いを尊重しあうもの。舞台上立つ個々の声と身体を最大限に引き出しながら、ひとつの作品に昇華することで、とても上質な舞台となりました。「こんにちは、共生社会」プロジェクト1年目の締めくくりとして、今後続くインターナショナルプログラムの第一歩を踏み出すことができました。

ゲスト

振付: Hyeonghee Kim

出演: Yejin Kwon, Hyunjung Lee, Jongtaek Sung, Minsoo Kim, Younghoon Hong, Dahye Kang, Chaihyun Lee, 森田かずよ、西岡樹里、福角宣弘、田村みくり、アラン・スナンジャ、大畑楽歩、福角幸子

音楽: Sungsoo Nah(ドラム)、Noah(ギター)、Woojae Jho(キーボード)、Hongboo Kim(ヴォーカル)

通訳: Yelin Moon

Keyword

多国籍大家族

愛する方法は
誰も教えてくれない

深いまなざし

詳細な内容はここから



CREDIT

クレジット

主催 文化庁、NPO法人DANCE BOX

企画制作 NPO法人DANCE BOX

《釜ヶ崎芸術大学@新長田ソケリッサと踊ろう！》

共催 NPO法人こえとことばとこころの部屋

《出前プログラム：ハートフルふれあいまつり》

共催 障害者・学びの場・創生プロジェクト実行委員会、福祉事業型「専攻科」エコールKOBÉ

後援 公益財団法人 神戸市民文化振興財団

協力 一般社団法人Water Ground Mountain、福祉事業型「専攻科」エコールKOBÉ、
特定非営利活動法人100年福祉会片山工房、NPO法人芸法、
一級建築士事務所こと・デザイン、ベトナム夢KOBÉ、長田教坊、
一般社団法人神戸コリア教育文化センター、VIAN、K+action、
はっぴーの家ろっけん、新長田あんしんすこやかセンター、
医療法人社団十善会グループ 野瀬病院、
医療法人社団十善会グループ野瀬サービス付き高齢者住宅[やっぱりここ]、
株式会社ホームセンターアグロ、合同会社こどもみらい探求社、
真陽小学校ホアマイ教室、ふたば食堂(コミュニティ型こども食堂)、
デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)、
クリエイティブ・アート実行委員会、神戸市総合療育センターまるやま学園、
一般社団法人手話エンターテイメント発信団oioi、FMわいわい、
ふたば国際プラザ、神戸映画資料館、cafeパペボ他 地域の施設、
団体、個人の方々

ぐちゃぐちゃのゴチャゴチャ

こんにちは、共生社会



<https://hello-diversity.tumblr.com/>

<https://db-dancebox.org/>